

# Code Orange

	代表者	河生多佳雄 (医学B 3年)
構成員		江見咲栄 (医学B 6年) 小川裕子 (医学B 6年) 木村貴一 (医学B 6年)
		孝橋信哉 (医学B 6年) 古原千明 (医学B 6年)
		濱野弘樹 (医学B 6年) 松尾欣哉 (医学B 6年)
		綾田亮 (医学B 5年) 岩橋晶子 (医学B 5年)
		梶間未葵 (医学B 5年) 木村翔一 (医学B 5年)
		島袋太一 (医学B 5年) 下川純希 (医学B 5年)
		下西惇 (医学B 5年) 仲田成美 (医学B 5年)
		中溝一充 (医学B 5年) 吉田陽 (医学B 5年)
		吉村沙記 (医学B 5年) 今井智子 (医学B 4年)
		岡本彩 (医学B 4年) 柏原彩乃 (医学B 4年)
		近藤萌 (医学B 4年) 新庄英梨子 (医学B 4年)
		杉下征子 (医学B 4年) 須田果穂 (医学B 4年)
		瀬戸口尚登 (医学B 4年) 田村友里 (医学B 4年)
		富永和花 (医学B 4年) 中島京 (医学B 4年)
		縄田慈子 (医学B 4年) 西田拓人 (医学B 4年)
		久本沙和 (医学B 4年) 森麻里母 (医学B 4年)
		明野由里奈 (医学B 3年) 小関元太 (医学B 3年)
		加藤優里 (医学B 3年) 佐村美穂 (医学B 3年)
		田代恵莉 (医学B 3年) 中嶋亮介 (医学B 3年)
		永久成一 (医学B 3年) 西田彩華 (医学B 3年)
		浜辺龍太郎 (医学B 3年) 宮本翔太 (医学B 3年)
		矢田祥子 (医学B 3年) 上野真帆 (医学B 2年)
		大神彩夏 (医学B 2年) 木村剛 (医学B 2年)
		木本義敬 (医学B 2年) 高浜麻衣 (医学B 2年)
		坪根咲里依 (医学B 2年) 戸川文子 (医学B 2年)
		仲野優 (医学B 2年) 水野ちづる (医学B 2年)
		宮崎由依 (医学B 2年)

## 1. 2013年度を振り返って

Code Orange は山口県内での心肺蘇生法の普及を目的として設立されたサークルであり、設立より6年を迎えようとしている。設立当初のメンバーがほとんど卒業し、構成員が激しく入れ替わる2013年度はProgressをテーマに掲げ、これまでの活動を活かしつつ、さらなる飛躍を目指し、学外への普及活動及び組織固めをより強固にした。大まかに活動内容を分類すれば、①組織内での活動【2.の1), 2), 13)】、②医学部外、学外へ向けての活動【2.の4), 5), 6), 7), 8), 9), 10)】、③医学部内での活動【2.の3), 11), 13), 14)】に分類することができる。今年度の特色は、普及活動の原点を見つめ直し、改めて普及活動の大切さについて受講者に訴えた事にある。

## 2. 2013年度の活動内容

- 1) 組織改編
- 2) 新規構成員勧誘
- 3) 医学部学生対象講習会
- 4) 本学七夕祭展示&講習会
- 5) 工学部オープンキャンパスにおいて活動紹介

- 6) BLS & First-aid WS
- 7) 医学部医学祭一般市民向け心肺蘇生法講座
- 8) 山口市防災実働訓練参加&講習会
- 9) 小野田工業高校保健指導
- 10) 宇部駅伝徒競走大会自転車救急隊&救護所
- 11) 山口大学医学部付属病院院内コメディカル対象講習会
- 12) 他大学での WS 参加
- 13) 定例会
- 14) 頌徳碑掃除

### 3. 組織内での活動

#### 3-1 組織改編

昨年度の活動開始時点で組織改編を行ったが、今年度さらに組織改編を行った。昨年度は、部門制をとる事で、部門ごとに役割を明確に分け、分担してプロジェクトを実施するという方針であったが、今年度は、プロジェクト毎にプロジェクトリーダーを設定し、プロジェクトリーダーの指揮のもと、プロジェクトを動かしていくという方針に変更した。この理由としては、①部門制をとる事により、組織のバランスが崩れた（例えば、広報活動部門のみ進行が進み、講習の内容に関する議論が停滞した）、②各構成員が、自由に活動する事が難しくなった（部門に捕われすぎてしまった）事が挙げられる。本年度は、プロジェクトリーダーを幹部学年の4年生が経験する事により、プロジェクトリーダーを経験した各構成員のモチベーションは上がった。

#### 3-2 定例会・定練会

昨年度末より開始しはじめた定例会を、本格的に週1回実施した。定例会は、週1回を原則として昼休みに20分程度でレクチャーを行うものである。定例会を円滑に実施するために、定例会の手配を行う構成員を1名設けた。定例会を行うメリットとして①週1回顔を合わせる機会を作る事で、組織を活性化する、②プレゼンターにとって、発表能力を磨く場となる、③参加した各構成員にとって、知識吸収、体系化の場となる、事が挙げられる。通年を通じて定例会を実施した事で、今年はより組織全体が活性化する事、メンバーをActiveにする事に貢献した。



写真1 定例会風景

### 4. 医学部外、学外へ向けた活動

#### 4-1 七夕祭

7月6日土曜日に山口大学吉田キャンパスで行われた七夕祭において、本年度も講習会を実施した。展示及び講習会の内容は成人BLS、小児・乳児BLS、FBAO、クイズである。当日は大雨警報が出され、展示時間も通常より短くなったが、ブースには30名近い人に来ていただき、ほとんどの人にBLS講習を受講して頂いた。受講者の中には小学生も大人数おり、普段とはひと味違った講習ができた。



写真2 七夕祭風景

#### 4-2 BLS & First-aid WS in Yamaguchi の実施

10月13日に山口大学吉田キャンパスにて、BLS & First-aid WS を実施した。このWSは対象を山口県内の大学生とし、BLS及びFirst-aidの重要性を伝え、手技の習得を目的としたものである。タイムスケジュールは、図1の通りである。当日は、19名の参加者を迎えた。日本各地で、BLSやACLS(2次救命処置)をテーマとしたWSは開かれており、WSは様々な大学の大学生が参加者、スタッフとして参加し、活気に溢れている。今回は、このWS形式で講習会を実施する事により、より充実度の高い講習会を実施する事を狙った。他大学のWSと違う点は、一般の大学生を対象としている事である。(一般的には、医療系の大学生のみを対象としている。)WSの準備にあたっては、総代表(プロジェクトリーダーに相当)を設定し、総代表の下、広報部門・参加者部門・インストラクター部門を設けて、部門ごとに仕事を割り振り、Code Orange 総力で開催の準備を行った。インストラクターは、通常の講習会とは違い、他大学からも募った。

9:00 ~	9:40	①標準予防策
		②ログロール
9:50 ~	11:10	③成人CPR
11:20 ~	11:40	④熱中症
11:40 ~	12:40	Q&A
12:40 ~	13:40	⑤小児・乳児CPR
13:50 ~	14:50	⑥FBAO
14:50 ~	15:50	⑦RICE
16:00 ~	16:35	⑧止血法
16:55 ~	17:35	MEGA
	~ 18:00	Ending

図1 WSのタイムスケジュール

参加者の参加後アンケート結果は、図2の通りである。また、表1にインストラクターを対象としたWSの内容に関するアンケート結果を示す。これらのアンケート結果、及びインストラクターの感想などを総合して分析すると、参加者、インストラクター両者にとって満足度が高く、内容もおおむね適切であったと考える。

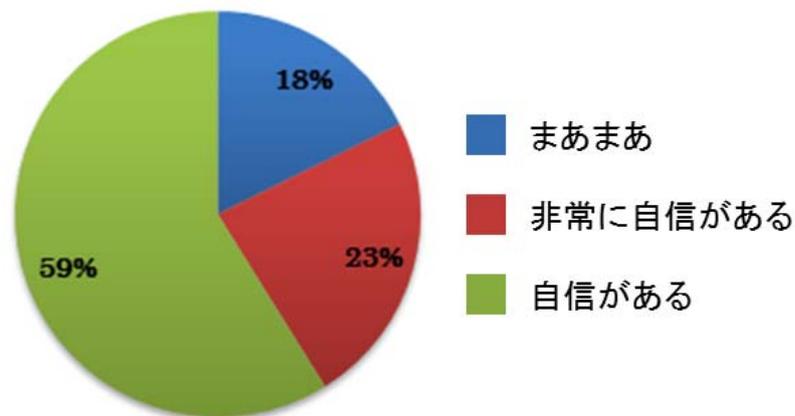


図2 「いざという時、自信を持ってBLSを行えそうか」参加者の参加後アンケート結果



写真3 WS 集合写真

表1 インストラクターのWS内容に関するアンケート結果

	時間配分	講義内容	シナリオ
Ice Breaking・体位変換・回復体位	2.917	4.085	3.974
成人 BLS	3.000	4.298	4.170
熱中症	3.125	4.383	4.091
Q&A	3.146	4.313	4.040
乳児・小児 BLS	2.917	4.417	4.085
FBAO	3.104	4.229	4.106
RICE	3.479	4.146	3.970
止血法	3.063	4.250	4.043
MEGA	2.958	4.318	3.936

時間配分 ( 1: 短い 2: やや短い 3: 適切 4: やや長い 5: 長い )  
 講義内容 ( 1: 悪い 2: やや悪い 3: 普通 4: やや良い 5: 良い )  
 シナリオ ( 1: 悪い 2: やや悪い 3: 普通 4: やや良い 5: 良い )

### 4-3 医学祭一般市民向け心肺蘇生法講座

毎年恒例である医学祭での一般市民向け心肺蘇生法講座を、11月8～11日に小串キャンパスで実施した。実施内容は、①BLS講習、②ALS（2次救命処置）の実演である。今年は、医学祭実行委員長よりの依頼で、地域医療推進学講座の中村浩先生の監督のもと、ACLS（2次救命処置）の実演も実施した。ACLSの実演は、路上で心肺停止に陥り病院に搬送された後、どのような蘇生処置が病院内で実施されているかを実演する事により、来場者の方に病院に搬送される前の人間によるBLSがいかに重要かを理解して頂くために実施した。また、BLS講習については、例年と同じく、2人1組でインストラクターとなり、来場して頂いた方に30分を基本にレクチャーを行った。当日は190名近い方に来場頂いた。アンケート結果は、以下図3に示す通りである。今年は、BLSがなぜ大切なのかを、対象者のレベルに合わせて訴える事により、講習を受けて頂いた方により印象づける工夫を行った。また、お土産（エコバック、クリアファイル、ポケットマニュアル等）を配る事により、講習受講後の復習を実施できるように、工夫も行った。講習会実施場所が変更になったり、講習時間が減ったりした事により講習者人数が減るなどの制約はあったが、持ち得るものを生かして、満足の行く講習が行えた。ただ、受講者の方にALSの実演からBLSの講習へ円滑に移行して頂く事が出来ず、課題も生じた。ALSの実演は、来年度移行実施するかわからないが、同様の事を行った際には、スムーズに行くよう、誘導するなど対策を行う必要がある。

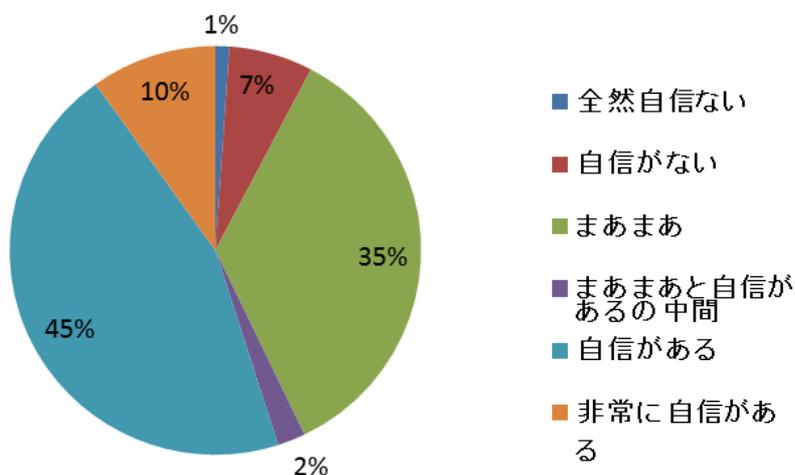


図3 「いざという時、自信を持ってBLSを行えそうか」受講後のアンケート結果



写真4 医学祭風景

#### 4-4 山口市防災実働訓練

医学祭期間中の11月9日に、山口市で実施された山口市防災実働訓練に参加し、訓練の中でBLSの講習ブースを設置させてもらい、BLS講習を実施した。3名の構成員が参加し、講習内容は、①成人の方に対しては、胸骨圧迫とAEDの使い方、②子どもにはAEDの使い方と応援要請、と対象者と時間に合わせて講習会内容の工夫を施した。60名近い方々に、非常に熱心に講習を受けていただけ、やりがいのあるものとなった。防災実働訓練に参加されている方は、防災や人命救助などに対する関心が非常に高いために、私たちが伝えたい事と相手の求めるものが一致し、非常に有意義な講習会となった。今後、同様の機会を見つけて積極的に講習会を実施できたらと考えている。



写真5 防災実働訓練講習会風景

#### 4-5 小野田工業高校保健指導

11月28日に地域医療推進学講座からの依頼で、山口県立小野田工業高校での保健指導を行った。この保健指導は、小野田工業高校に在籍する定時制学生21名を対象とし、宇部小野田消防の救急救命士が外傷の講義・実技を、Code OrangeがBLSの講義・実技を担当した。タイムスケジュールは以下の図4の通りである。受講後のアンケート結果は、以下の図5の通りである。このような外部の学校からの講習の依頼は、Code Orange創設後初めてであり、どのように高校生を盛り上げるかは、課題となった。しかし、実際は高校生と私達大学生は年齢が近い事から、とても親しみを持って講習を実施する事ができた。また、お土産（エコバック、クリアファイル、ポケットマニュアル等）もとても興味を持って受け入れられ、とてもよかった。

この講習会は、医学祭から間隔がなく実施された事、また事前に地域医療学講座の先生、消防の方と話し合う事ができなかつたため、準備に時間が十分にとれず、また細かい計画もたてずに当日を迎える事になった。しかし、上級生が中心にインストラクターとして参加した事や、当日うまくインストラクターが連携をとれた事により、無事に本番を終える事ができた。日頃コミュニケーションが良好である証と言えるだろう。

---

16:40 ~	16:50	応急処置講義
16:50 ~	17:00	心肺蘇生講義
17:00 ~	17:25	実技
17:35 ~	18:00	実技
18:00 ~	18:10	まとめ

---

図4 小野田工業高校保健指導タイムスケジュール

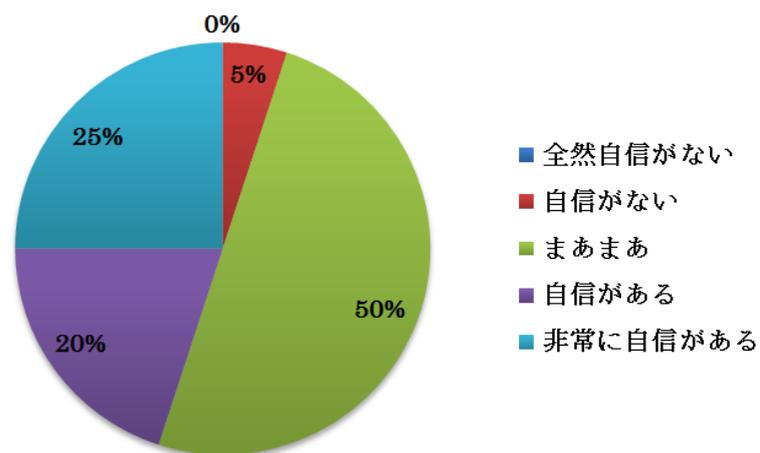


図5 「いざという時、自信を持ってBLSを行えそうか」参加者の受講後アンケート



写真6 小野田工業高校保健指導風景



写真7 小野田工業高校保健指導風景

#### 4-6 宇部駅伝徒競走大会

宇部市体育協会からの依頼で、2月2日の宇部駅伝徒競走大会にて自転車救急隊及びBLS講習を実施した。昨年度は救急車で搬送や、応急手当を必要とするランナーが複数いたため、今年度は従来のBLSに加えて、すり傷や捻挫などにも現場で対応できるようにあらかじめ練習を重ねて臨んだ。幸い、当日は大きなトラブルなく終える事ができた。BLS講習は3人の高校生に受講してもらった。駅伝大会では、BLS講習をする時間が例年あまりとれず、今年も同様の結果となった。今後、BLS講習については、どのように受講者数を増やせるか、検討する必要がある。



写真8 宇部駅伝集合写真

### 5. 医学部内での活動

#### 5-1 新規構成員勧誘

4月中に新規構成員勧誘を行った。今年は、茶話会を5回実施し、茶話会ごとにプレゼンテーションを2つないし3つ行った。プレゼンテーションの内容は、大きくわけ2つで、①Code Orange 全般の活動紹介、BLSの重要性に関するものと、②Code Orange と個々人の関わりに関するものである。新規構成員勧誘は非常に重要である。その理由は①Code Orange の活動を継続的に行うため、②BLSの重要性を医学部内に広げる大切な機会である、からである。今年度は最終的に12名の新しい構成員を迎える事になった。今後とも、継続的に構成員を増やせるよう、工夫を重ねていきたいと思う。



写真9 茶話会風景

## 6-2 医学部学生対象講習会

医学部学務課からの依頼で、医学部学生自治会と共同で医学部学生を対象とした講習会を実施した。昨年度から Code Orange 単独で講習会を実施しており、今年は単独開催として2年目となった。より受講者に身につけてもらうために、講習会の最後でシナリオと呼ばれる、受講者のみで事例に対応してもらう試みを今年に行った。タイムスケジュールは、以下の図6の通りである。受講者のアンケート結果は、以下の図7の通りの結果となった。講習会で一番疲れの出やすい最後に、一番白熱するシナリオを持ってくる事により、充実した講習会となった。

---

18:10 ~	18:35	熱中症講義
18:35 ~	18:55	BLS 講義
18:55 ~	19:00	休憩
19:00 ~	20:00	BLS 実技 (シナリオ含む)

---

図6 医学部学生対象講習会のタイムスケジュール

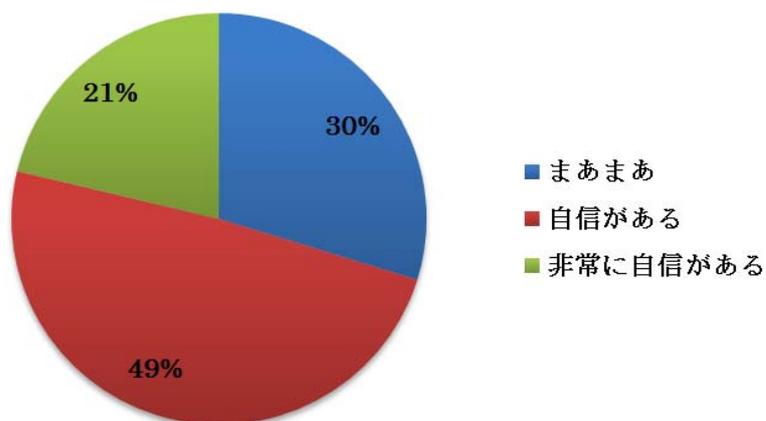


図7 「いざという時、自信を持ってBLSを行えそうか」医学部学生対象講習会の参加後アンケート結果



写真10 医学部学生対象講習会の風景

## 6. 頌徳碑掃除

Code Orange では、月に1回、頌徳碑掃除を実施している。頌徳碑とは、解剖学実習にて解剖体となられた方々のご遺骨が納められている場所であり、医学部生たるもの、御献体された方々への感謝の気持ちを忘れてはならないという思いから掃除を実施している。この活動は Code Orange の設立時から実施されているものである。今年度も途切れなく頌徳碑掃除を実施した。

## 7. 総括・今後の展望

私たち Code Orange の活動の核は、心肺蘇生法の普及を通して救命率の向上に寄与する事である。設立5年目のこの1年は、改めて原点を見つめ、魅力ある普及活動を実施する事に徹した。継続して活動したメリットとして、様々な外部の方から講習の依頼がくるようになった事である。逆にデメリットとして、長年同じ活動を続けてきた事により、目新しさが薄れてきた事である。また、構成員の数が設立以来最も多くなった事も影響して、構成員の中でも、活動の趣旨についての理解は、設立初期に比べては薄れてきた感が強い。活動の趣旨について、改めて構成員の中で考える必要がある。目新しさが薄れてきた事を打開する方法の一つとして、インストラクター・受講者両者にとって満足度の高い講習をより展開する事が挙げられる。両者にとって満足度の高いものであれば、Positive な循環が生まれ、お互いに活動に積極的になる事ができる。そのためには、講習をする目的を明確にし、対象者のレベルを事前に把握しておく必要がある。その上で、受講者に積極的に参加してもらえ講習を展開する必要があるであろう。

講習会受講後のアンケートを分析すると、「いざという時、自信を持って BLS を行えそうか」という設問に対して、「自信を持って行える」以外の回答（特に、「まあまあ」という回答）が一定割合いる事がわかった。BLS は、いざという時に出来なければ、その意味はないものなので、この方々に対して、どうフォローするかを考える必要があると思われる。具体的には、いざという時にできないと意味がない事を強調して説明し、積極的に講習会を受講してもらえようにする事などが考えられる。

心肺蘇生法を普及する事の意義は変わる事はなく、ぶれない。今後とも、心肺蘇生法の普及を通して、1 つでも多くの命を守る事に徹していく次第である。来年度も積極的な活動を展開していきたい。